

FoToZoFlo 応募書類

「時の痕跡」 Evidence of Time

山口史男 FUMIO YAMAGUCHI

略歴

氏名：山口史男（ヤマグチ フミオ）74歳

1950年福岡市に生まれる。

1974年宇都宮大学農学部林学科卒業

1978年島根大学農学研究科修士課程修了、農業及び社会科教員免許取得

1978～2010年岡山理科大学附属高校教諭、歴史と地理など担当

2010～2015年英数学館高校非常勤講師、歴史と地理など担当

2016年～NHK文化センター福山講師「西洋名画の歴史」

著書：翻訳書

『森の鳥たち』1995年 近代文芸社

『生きているオリンピックオーク』1998年近代文芸社

『北欧ライフは木造民家に始まる』2022年キンドル電子出版

写真：個展・公募展など

2012年個展「Waterscape」新宿ペンタックスフォーラム

2011～2013年 International Photography Awards (アメリカ) 入選18点

2012年 San Francisco Photography Competition (アメリカ) 佳作

2012年 San Francisco New Images Photography Awards (アメリカ) 銀賞ギャラリー展示

2012年～2013年 Black&White Spider Photography Awards (アメリカ) 入選

2014年「九州発北欧展」(福岡) 写真展示、スウェーデン、ノルウェーのトーク

2015年～2016年 Lens Culture Editor Pick (アメリカ) 招待作家

その他

版画：

2016年第5回 FEI PRINT AWARDS 求龍堂賞

2016年第10回大野城まどかびあ版画ビエンナーレ入選

2016年第84回日本版画協会展入選

2017年第13回浜松市美術館版画大賞展入選

2017年第16回南島原セミナーヨ現代版画展ケーブルテレビ島原賞

2017年第94回春陽会版画部入選

2017年第85回日本版画協会入選

2018年版画展(個展)「イマージョン」福山市 画廊ソウル

2018年第62回 CWAJ 現代版画展(東京) 入選

2019年第18回南島原セミナーヨ現代版画展 JA 雲仙島原組合長賞

2019年第63回 CWAJ 現代版画展(東京) 入選

2019年 第2回国際版画ビエンナーレ(イエレバン、アルメニア)

2019年国際リトグラフトリエンナーレ キールツェ(ポーランド) 2018-19

2019年第4回デューロ国際版画展(ポルトガル) 招待出品

2020年第10回デューロ国際版画ビエンナーレ(ポルトガル) 招待出品

2020年ルネ・カルカン国際版画展(ベルギー) 一等賞

2021年第11回高知国際版画トリエンナーレ

2021年オカナガン国際版画トリエンナーレ(カナダ)

2022年個展「草・樹・鳥のバラード」醇風会ギャラリー(岡山)

2023年個展「Le Collage ～写真と版画の狭間に～」京都写真美術館

2023年第11回デューロ国際版画ビエンナーレ(ポルトガル) 招待出品

NAME FUMIO YAMAGUCHI

Personal

Address : 2-13-48-601, kinoshochō 7200082 Fukuyama city Japan

Phone number : 0818052337081 Email : olympicoak001@gmail.com

Date of birth : 13-11-1950 Place of birth : Fukuoka Japan

Gender : Male Nationality : Japan

Website <https://fumio001.wixsite.com/fumio-yamaguchi>

Interests : Photography Printmaking Writing a book

Publications

1995 『Wild Birds in a Woods』 Kindaibungeisha, Japan

1998 『Olympicoak Still Alive』 Kindaibungeisha, Japan

2017 『Helsinki is a Museum of Architecture』 Kindle Direct Publishing

2023 『Scandinavian Wood House』 Kindle Direct Publishing

● Photo. activities

1985 Solo Exhibition 「Kathmandu」 Tenmaya City Gallery Fukuyama

2000 Solo Exhibition 「Shangri-la」 Suloga Gallery Okayama

2012 Solo Exhibition 「Water Scape」 Pentax Forum Tokyo

2011 ~ 2013 International Photography Awards Selected 18 works

2012 San Francisco Photography Competition Honorable Mention

2012 ~ 2013 Black&White Spider Photography Awards Silber Medal

2015 ~ 2016 Lens Culture Editor Pick Invited Photographer

● Graphic Art

2016 FEI PRINT AWARDS (YOKUHAMA) kyuryudo Prize

2016 10th Onojo Madokapia Print Biennale

2016 84th Japan Print Art Association

2017 13th Hamamatsu City Museum Print Awards

2017 16th Minami Shimabara Seminariyo Contemporary Print Awards Honorable Mention

2017 85th Japan Print Art Association

2018 Solo Exhibition 「Imersion」 Art Space Seul Fukuyama, Japan

2018 CWAJ Contemporary Print Awards(Tokyo)

2019 18th Minami Shimabara Seminariyo Contemporary Print Awards Honorable Mention

2019 63rd CWAJ Contemporary Print Awards(Tokyo)

2019 The Second International Print Biennale Yerevan(Armenia)

2019 THE INTERNATIONAL LITHOGRAPHY TRIENNIAL II LITHO-Kielce / 2018-19 (Poland)

2019 National Original Print Exhibition 2019(UK)

2019 Eight International Print Art Triennial - Sofia 2019(Bulgaria)

2019 4th GLOBAL PRINT 2019 DOURO(Portugal)

2020 Rene Carcan International Prize Printmaking The First Mention(Belgium)

2021 The 10th Koch International Triennial Exhibition Of Print(Japan)

2022 Solo Exhibition 「The balade of grass, tree, birds」 gallery Venere(Okayama)

2023 The 11th International Printmaking Douro Biennial(Portugal)

2023 The AAmA International Art Exhibition(China)

製作動機

異なった技法・技術の境界領域に新しい表現が生まれる。写真家として活動し、7～8年前から写真を使った版画も制作するようになった。写真のリアリティと版画のイメージ性を生かした表現の可能性に興味をもって制作している。それは写真とは何だろうか、また版画とは何だろうかと自問する行為でもある。デジタル写真が発達する中で、これまでと違った写真表現ができるのではないかと。何を撮影するだけでなく、テーマをどのように表現できるか、またソフトやパソコンの進化によって、新しい写真表現が可能なのでは、といった期待をこめて作品制作をしている。「時の痕跡」は、そういった過程で制作した作品である。

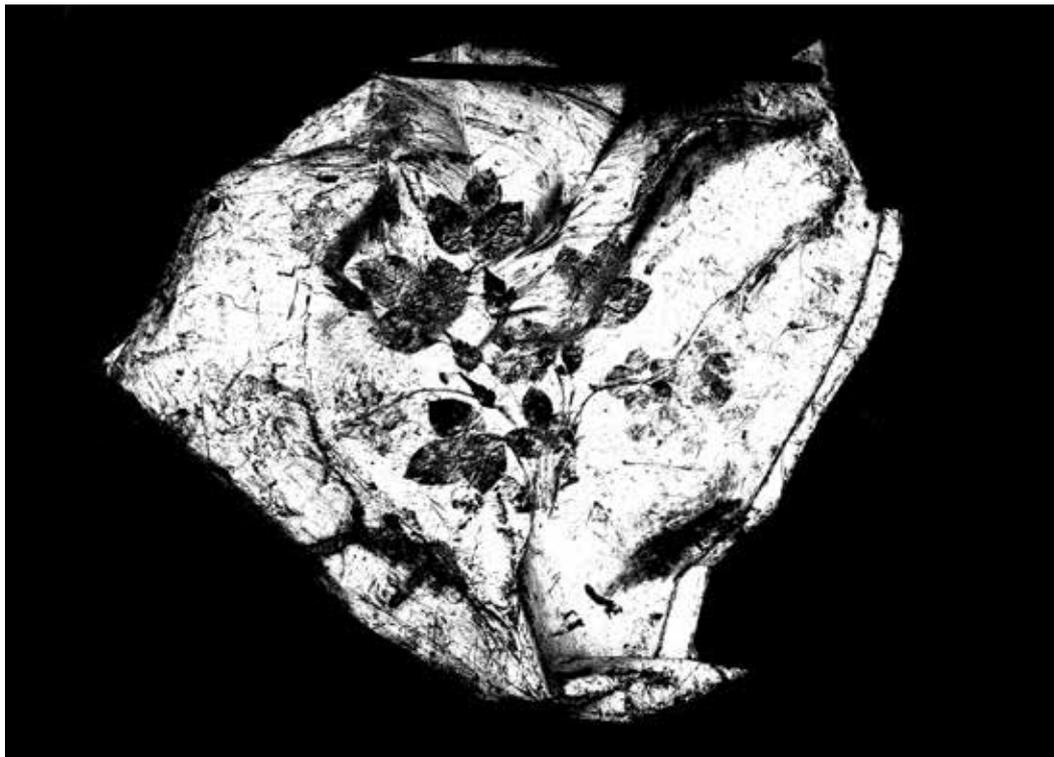
テーマの説明

「時の痕跡」

眼に見えるすべてのものは痕跡である。何かを見た瞬間からそれらは過去のものになり写真に撮った瞬間から記録となっている。シャッターを押した瞬間、見たものは記録に転化し、ふだんその時間の経過によるものの変化を意識することはない。さて、休日に工場・倉庫群に面した埠頭周辺を歩いていると、鉄くずや配管、空き缶などが山積みされ、すでに当初の役割を終え再利用されるための時間を、その廃材置き場で過ごし、それらにとって止まったかのような時間を過ごしている。その廃材を微細な眼をもって見ると風や太陽、雨などにさらされ風化し、また空き缶はプレス機でつぶされ商品として完成された姿は、無残なまでに潰され本来の形を失っている。

写真に撮った廃材、空き缶など見ながら、ふと失われた時間の痕跡を表現できないだろうかと思った。

作品



Pressed Flower



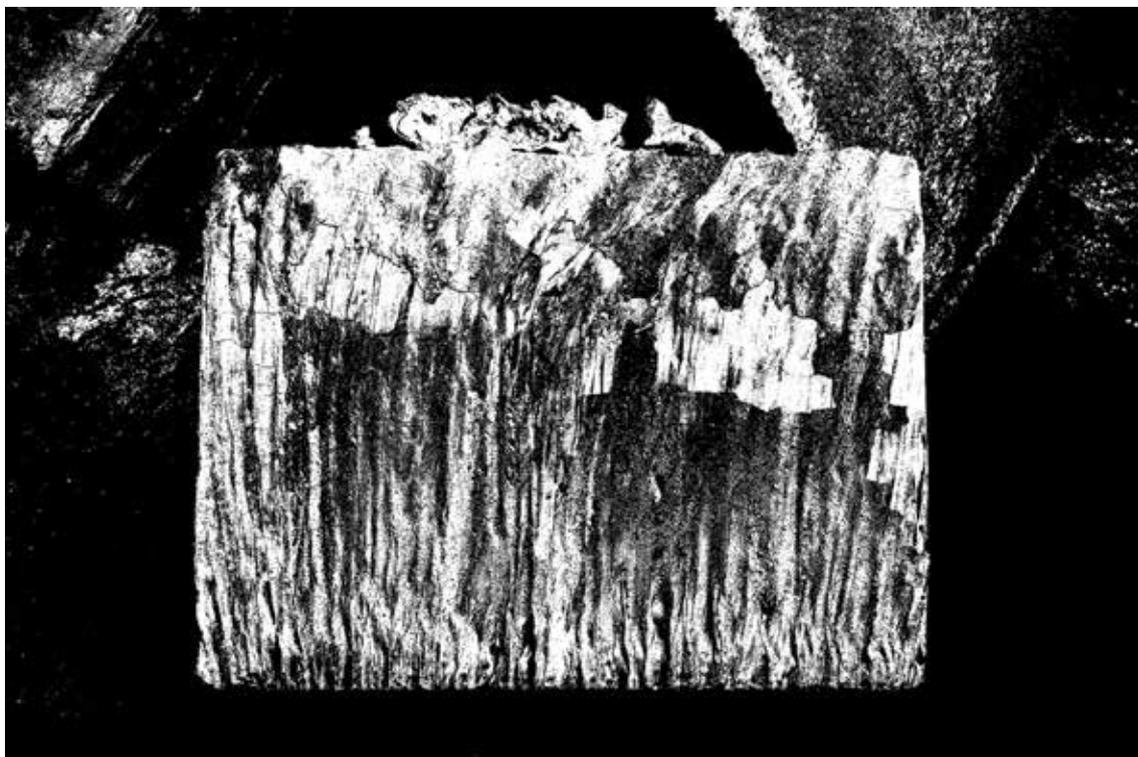
Bag



Pressed Can



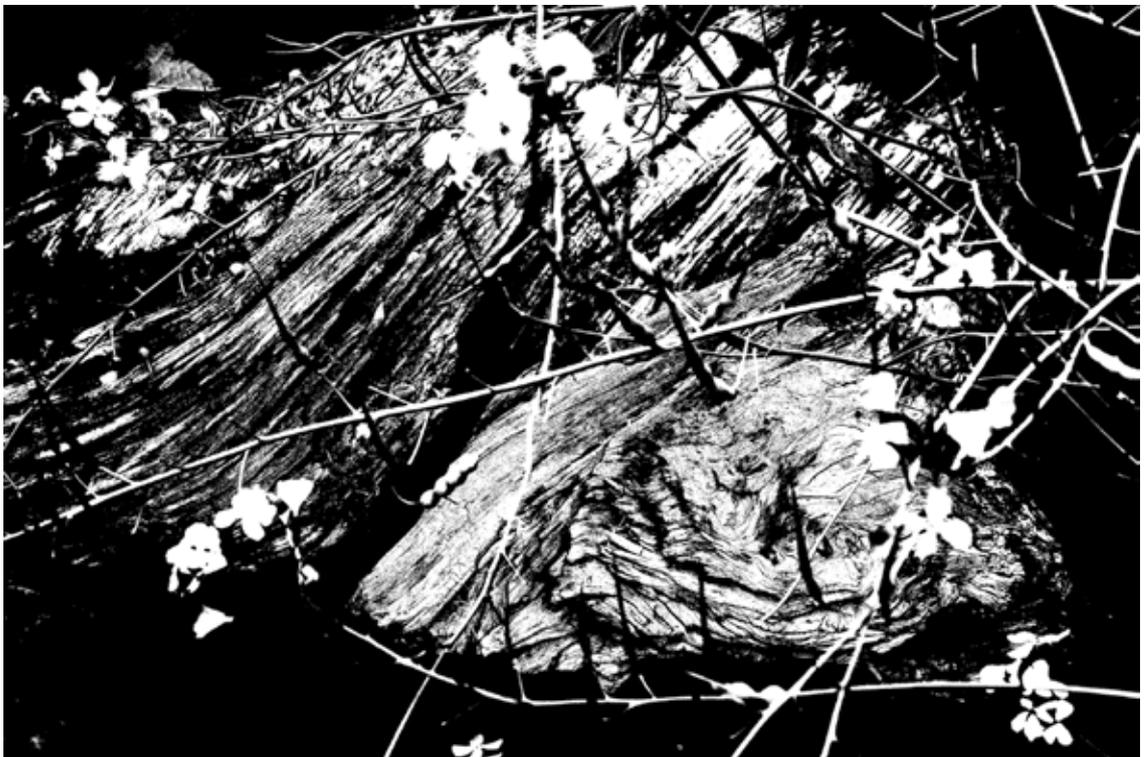
Yellow Flower



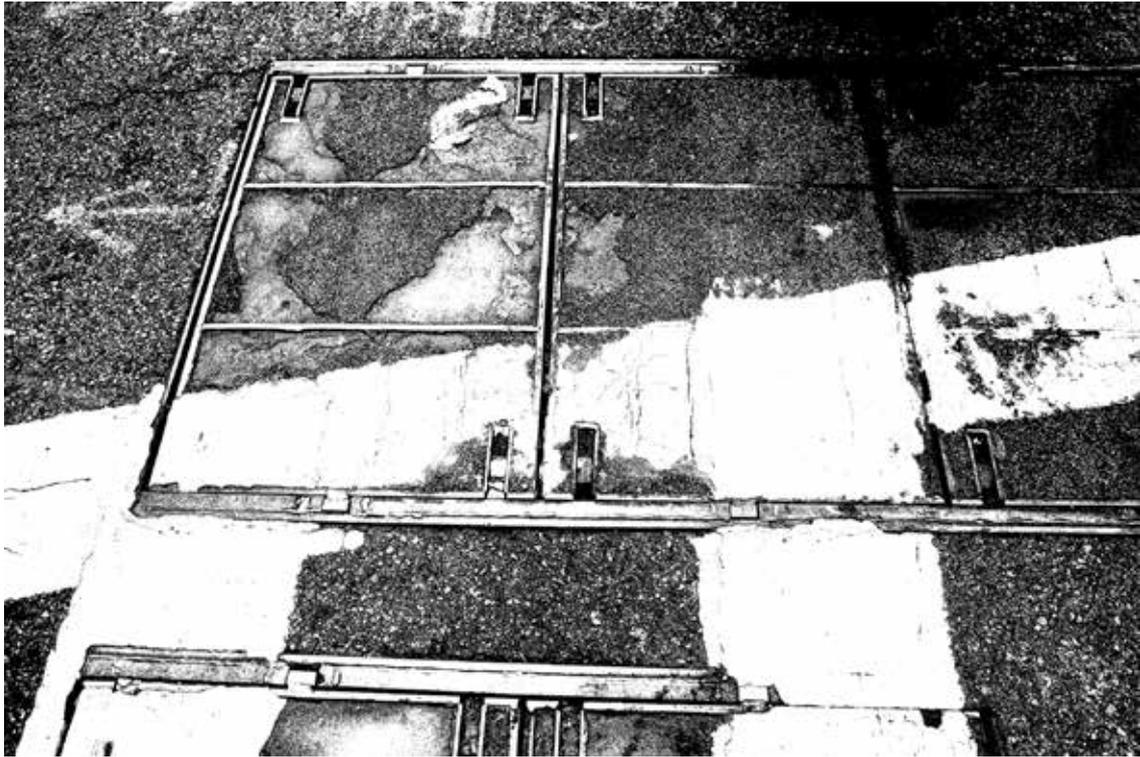
Brief Case



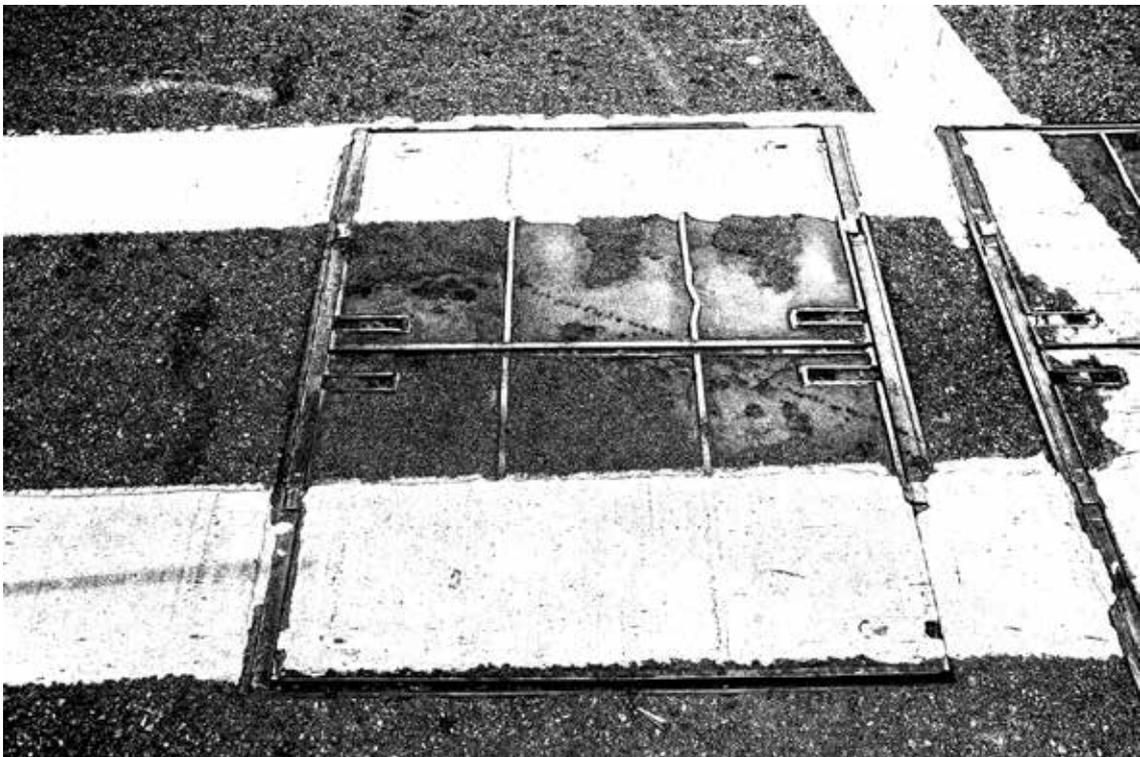
Black Bleed



Driftwood



Square No:1



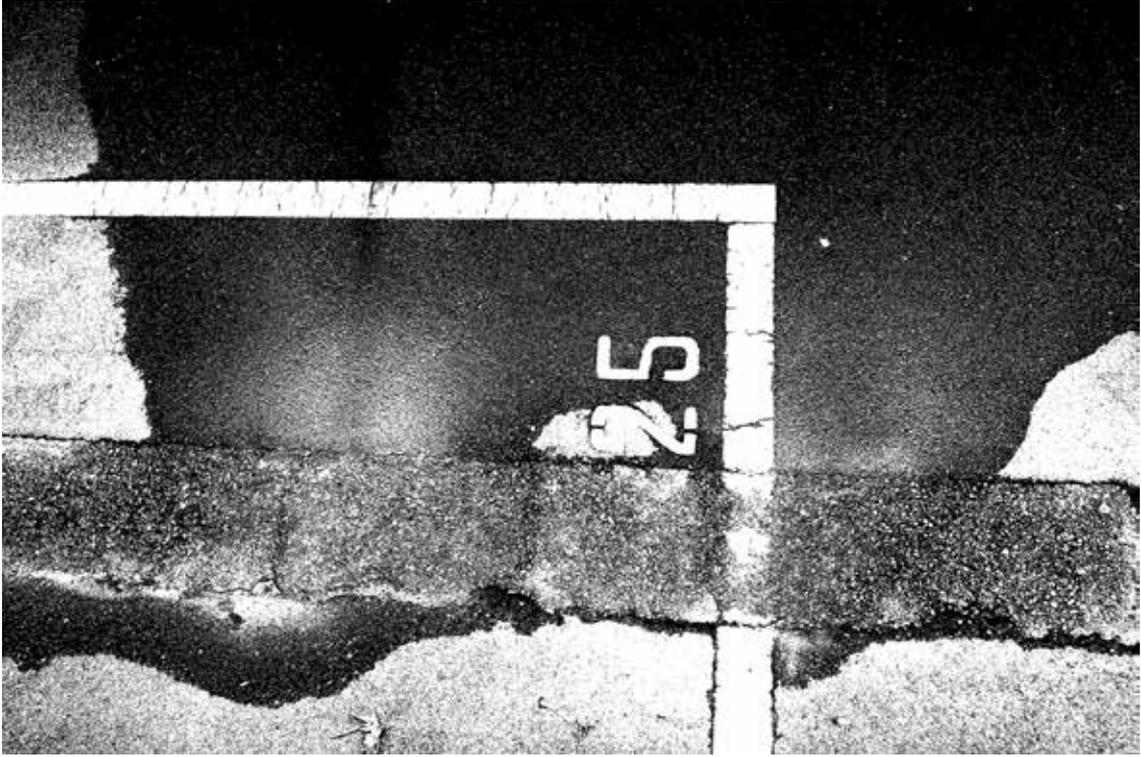
Square No:2



NO.23



7661



25



Bus Lane